

国語問題

(三月十九日 実施)

□ 次の文章を読んで後の問に答えよ。

儒家思想を基礎づけた孔子は、人間の常識を形となすことで社会の秩序が成り立つと考えた。しかし次第に形式主義に流れしていく儒教を批判したのが老子や荘子たちである。

老子という人物は実在しない、というのが通説である。(A)、そういう人物がいてもいなくても、それは大して問題ではない。重要なことは、老子という人物に^a夕クされて残っている『老子』という書物の思想である。

老子の立場とは、一口で言えば、孔子の胸を借りた反儒教である。常に儒教の諸テーマに対して批判するという形である。(B)、それは対照的であった。

たとえば、「人間らしい」とか、「人間として」という場合、両者は対照的である。儒教では、飲みかつ食らい、感覚のままに生きるというのは、動物的であって、人間らしくないとする。孔子は、人間は感性のままに生きるのではなくて、知性をもって生きることが「人間として」の生き方であり、「人間らしい」と言えるとした。(C)、その知性は、教育によって得られ、その知性をさらに磨いて徳性を持つことができると思じた。(D)、生まれたままの人間ではなくて、知や徳に化されること、知化・徳化を最高としたのである。知化・徳化とは、人の手による「文」化であり、「教」化であり、「礼」化である。(E)、「徳」によってなびく「風化」¹でもある。

それは人工の世界の賛美であるから、自然を下に見る。自然を切り開き、支配し、その中に人工の世界を作り、そこが人間の住むところとする。そしてそこは、すぐれた聖人によって作られた礼の世界であり、礼のあるところにこそ文化があるとしたのである。

これに対して、老子は、礼の世界、そしてその礼による文化・教化・知化・徳化・風化を否定する。人工の世界を否定する。礼こそ、人間を人間らしくさせないものだ、儒家の言っていることは、結局は世界の X である、とする。だから、儒家の行きつく先は、地位・財産・名誉など、いわゆる^bフウキを追い求める行きかたとなり、(F)、そういう世俗の世界は、フウキを求めて相い争う世界となってしまう、と。

それではどうするかというと、儒家のように人工的世界を重視するのではなくて、自然的世界を重視しよう、ごたごたした常識や世俗のこざかしい知恵で俗化されないようにしよう、礼を棄てよう、と主張するのである。いわゆる「 Y 」であり、「学を絶たば、^cウレいなからん」という世界の賛歌である。たとえば子ども観の場合、儒教では「教育を受ける子ども」であるが、老子では「生まれたままの汚れない無邪気な^d嬰兒」という子ども観である。すなわち、教育を受けた、こましくくれた子どもの否定である。

しかし、老子のこうした自然的世界の重視は、(G)、原始的世界の重視を意味するものではない。人間は原始的世界にあるとき、ただ(H)、人工的世界を追い求める。その成果が、たとえば儒家の文明賛歌、人工的世界の賛歌である。しかし、老子はそうした文明や人工の世界の賛歌の中にある^d夕ラクを批判して、反対に(ギャクセツ的に)自然的世界を持ち出してきたのである。原始的な自然的世界から人工的世界となったその否定であるから、人工的世界の批判の結果生まれてきた、自然的世界の重視であることに注意しておかなくてはならない。それは、人工的世界重視を一度経てきた自然的世界重視であり、(I)、原始的自然の世界の賛美ではない。自然の見直し、自然の再評価とも言うべきものである。こういう意味で、老子の立場は、儒教の胸を借りた反儒教である。

あえて言えば、その儒家批判はなかなか鋭いが、それでは儒家の人工的世界重視を否定して何が残り、どういう具体的世界ができるかという点、(J)、心もとない。スケッチとして表されているのは、人々が争わず自給自足の静かな^f田園生活を送るという空想だけである。家族理論はもとより、政治理論もない。そういう老子からは、具体的な政策や社会キ^fハンがないのは当然であり、結局は、中国の実社会や政治において思想として主流になることはなかった。儒教が、個人以外、常に社会を問題とするのに対して、老子は、個人の問題にとどまるものであった。²同じことは仏教についても言える。

(加地伸行 「儒教とは何か」 中公新書)

問一 二重傍線部 a ～ f 同じ漢字を含むものを後より選び、番号で答えよ。

- a タク^{||}されて
- 1 ジュンタクな資金
 - 2 決議案をサイタクする
 - 3 タクエツした才能
 - 4 歌碑のタクホンを取る
 - 5 商品のイタク販売

b フウ^{||}キ

- 【2】
- 1 財産がフえる
 - 2 ホウフな人材
 - 3 フウキを乱す
 - 4 花鳥フウエイを趣味とする
 - 5 会議場をフウサする

c ウレ^{||}い

- 【3】
- 1 ユウチヨウにかまえる
 - 2 牢屋にユウヘイされる
 - 3 ユウエキな話を聞く
 - 4 ユウウツな日々を送る
 - 5 ユウカイ犯人

d ダ^{||}ラク

- 【4】
- 1 顔面をオウダされる
 - 2 交渉がダケツする
 - 3 地獄にオちる
 - 4 これが名にオウ隅田川
 - 5 オシヨク事件が摘発される

e ギヤクセツ^{||}的

- 【5】
- 1 相手をセツトクする
 - 2 セツシヨウ関白
 - 3 鉄道をフセツする
 - 4 リンセツする国
 - 5 チセツな絵になった

f キハ^{||}ン

- 【6】
- 1 センバンご依頼の件
 - 2 会場にハンニユウする
 - 3 ハンザツな規定を整理する
 - 4 倫理学のハンチュウに属する問題
 - 5 ハンゼンとしない主張を繰り返す

問二 空欄 A ～ E にふさわしい接続語を次より選び、番号で答えよ。 A 【7】、B 【8】、C 【9】、D 【10】、E 【11】

1 すなわち

- 2 あるいは 3 しかも 4 さて 5 そして 6 もっとも

1 単なる

- 2 けつして 3 ぜひ 4 ひたすら 5 はなはだ 6 当然

問四 文脈上、空欄 X にふさわしいものを次より選び、番号で答えよ。 【17】

1 相対化

- 2 合理化 3 精神化 4 純粹化 5 近代化

問五 空欄 Y にふさわしいものを次より選び、番号で答えよ。 【18】

1 輪廻転生

- 2 諸行無常 3 盛者必衰 4 無為自然 5 一意専心

問六 傍線部 1 の本文での意味を次より選び、番号で答えよ。 【19】

1 自然人としての正しい生き方を知性・道徳の両面で広めていくこと。

- 2 記憶や印象が時とともに薄れ形骸化していくこと。
3 上に立つ者が下の者に影響を与えて心を変えさせること。
4 物質が空気などの作用を受けて少しずつ変化すること。
5 人間が知性と感性を磨き上げて人工の世界を作り上げること。

問七 傍線部 2 の内容としてふさわしいものを次より選び、番号で答えよ。 【20】

- 1 仏教は個人の信心に基づくものである故に、苦しむ他者を救済する力を持ちえない。
- 2 仏教も個人の段階にとどまり、現実社会の具体的なあり方を指し示すことはなかった。
- 3 仏教は個人中心の生き方の問題であり、世俗的な栄達を求めることを否定している。
- 4 自然の中にある生き方を賛美し、人工の世界を個人に対立するものとして批判している。
- 5 仏教も個人の問題にとどまっつていて、社会の問題とは根本的に無関係であった。

【二】 次の漢字の読みを後より選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|
| A | 举措 | B | 更迭 | C | 諮問 | D | 漸次 | E | 塑像 |
| F | 頒布 | G | 普請 | H | 窯業 | I | 遵守 | J | 逼迫 |
| ア | まいきよ | イ | きよそ | ウ | きよしゆ | エ | こうそう | オ | こうてつ |
| キ | しもん | ク | らくもん | ケ | かくもん | コ | ざんじ | サ | ぜんじ |
| ス | ちようぞう | セ | さぞう | ソ | そぞう | タ | ぶんぶ | チ | はんぶ |
| テ | ふせい | ト | ふしよう | ナ | ふしん | ニ | ようぎよう | ヌ | とうぎよう |
| ノ | そんしゆ | ハ | じゆんしゆ | ヒ | ひんしゆ | フ | そうはく | ヘ | ひんぱく |
| | | | | | | | | ホ | ひっぱく |

【三】 次の空欄を後の漢字で埋めて、故事成語を完成せよ。(選んだ漢字は記号で答えること)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------|---|-------|----------|-------|-------|-------|---|--------|----|-------|---------|-------|---|--------|----|-------|--------|------|---|--------|----|---|----------|---|--------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 【31】、 | B | 【32】、 | C | 【33】、 | D | 【34】、 | E | 【35】、 | F | 【36】、 | G | 【37】、 | H | 【38】、 | I | 【39】、 | J | 【40】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | 暗中(A) | 索 | ○ | 偕老同(B) | ○ | (C) | 薪嘗胆 | ○ | 汗(D) | 充棟 | ○ | 月下(E) | 人 | ○ | 鼓(F) | 擊壤 | ○ | 捲(G) | 重來 | ○ | 切(H) | 扼腕 | ○ | 不俱戴(I) | ○ | 羊(J) | 狗肉 | | | | | | | | | | | | |
| ア | 氷 | イ | 穴 | ウ | 打 | エ | 情 | オ | 主 | カ | 腹 | キ | 血 | ク | 模 | ケ | 天 | コ | 薄 | サ | 引 | シ | 齒 | ス | 臥 | セ | 頭 | ソ | 指 | タ | 汁 | チ | 土 | ツ | 横 | テ | 牛 | ト | 糸 |

【四】 次の文を読んで、後の問に答えよ。

明治三十年代の中頃から現実重視の傾向がおこってきたが、文学の上では島崎藤村の作品(A)の成立によって自然主義文学が盛んになってくる。その日本の自然主義文学の特色は、現実の醜悪な部分を取り上げたこと、さらにその描写の方法は純客観的にすることをめざしたことである。作家としては『蒲団』の作者田山花袋、『縮図』の作者(B)、『何処へ』の作者(C)などがいる。

しかし、この自然主義文学の傾向にあきたらない人々も出現し、その中には官能享楽主義を標榜して『腕くらべ』を著した永井荷風、『春琴抄』を著した谷崎潤一郎などの(D)派の人々や、自我の至上・個性の尊厳を主張して作品を書いていた武者小路実篤・有島武郎等を中心とする(E)派の人々がいる。彼らは反自然主義派に属するグループである。

問一 空欄 A に適切な作品を次より選び、番号で答えよ。 【41】

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|---|----|---|-----|---|----|
| 1 | 若菜集 | 2 | 夜明け前 | 3 | 舞姫 | 4 | 武蔵野 | 5 | 破戒 |
|---|-----|---|------|---|----|---|-----|---|----|

問二 空欄 B・C にふさわしい作家をそれぞれ選び、番号で答えよ。 B 【42】、C 【43】

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| B | 1 | 長与善郎 | 2 | 志賀直哉 | 3 | 里見 惇 | 4 | 徳田秋声 | 5 | 尾崎喜八 |
| C | 1 | 正宗白鳥 | 2 | 坪内逍遙 | 3 | 北原白秋 | 4 | 山本有三 | 5 | 菊池 寛 |

問三 空欄 D・E にふさわしいものを次より選び、番号で答えよ。 D 【44】、E 【45】

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|-----|
| 1 | 新感覚 | 2 | 浪漫 | 3 | 白樺 | 4 | 耽美 | 5 | 新現実 |
|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|-----|

〔五〕 次の短歌とその鑑賞文を読んで、後の問に答えよ。（原文を一部改変してある）

葛の花 踏みしだかれて、 色あたらし。 この山道を行きし人あり 釈 道 空

あまり人も通りそうでないわびしい山の小道。季節は晩（A）のころであろう。作者はただひとりとはとぼとぼとどつていく。葛がほしいままにはびこっていて、ともするとその山道を見失うまでにおおいかぶさっている。見ると葛はあちらこちら踏み散らされている。この葛の花の踏みにじられた色はまだ土の上になまなましい。そこで作者はつい今し方自分よりも先にこの道を通っていった人があるのだなと感じたのである。（B）という認識は、一つの驚きを与えたのである。このような道は自分より他に誰も通るまいと思っていたのに、今しがた通っていった人があったのだということに強い感動を呼び起こしたのである。

この歌について旧派歌人の武島羽衣が「まことに幼稚ないひかたの歌である。『ふみしだかれて色あたらし』では、色だけが惜しいという事になる。白く咲いた葛の花の踏みしだかれてゐるのが惜しいといふ事であらうから、かやうに言つたのでは適当してゐない。『心なく山道ゆきし人あらむふみしだかれぬ白き葛花』などなければならぬ」と評したことがあった。

作者はこの老歌人にあわれみをもつて反撃したのち、「私自身のつもりを申しますと、この歌には散文詞をとりこまうといふ計画があつたのです。そこで（C）だのといふ所謂殺風景な感じのある語も入れ、（D）などいふきつぱりし過ぎで感情の流動を堰き止めるきらいのある詞なども使ひました。（E）など言ふぶつきらほうな投げ出した表現も試みたのでした」と言っている。更にその気持ちを付度して（E）にこめられた感慨について考えてみる。

どこから来てどこへ行き果てるのかわからない、おそらくは自分とは永遠に相会うことのないであろうその人を、踏みにじられた葛の小花によつてしみじみと思つてゐるのである。そしてそこに旅ゆくことのアわれさ、人の世のさびしさといったものを深くかみしめてゐるのである。道空は同じころに、

いまだ わが ものに寂しむさがやまず。 沖の小島にひとり遊びて

という歌を作っているが、（F）がまさしくこの（E）にこめられていることを知らなければならぬのである。

問一 空欄Aには次のどの語が適当か。選び番号で答えよ。 【46】

- 1 春 2 夏 3 秋 4 冬 5 新年

問二 文中、武島羽衣は葛の花を観念で捉えて色を間違つてゐるが、それ以上に大きな誤解をしている。それが分かるのは、彼の歌のうちのどこか。次より選び番号で答えよ。 【47】

- 1 心なく 2 山道行きし 3 人あらむ 4 ふみしだかれぬ 5 白き葛花

問三 空欄B・C・D・Eに該当する語句を、冒頭の歌より選び、次の番号で答えよ。

B 【48】、C 【49】、D 【50】、E 【51】

- 1 葛の花 2 踏みしだかれて 3 色あたらし 4 この山道を 5 行きし人あり

問四 空欄Fに該当する語句を、直前の歌より選び、次の番号で答えよ。 【52】

- 1 いまだ わが ものに寂しむさが 3 さが やまず
4 沖の小島に 5 ひとり遊びて

問五 この短歌の出典は次のうちのどれか。選んで番号で答えよ。 【53】

- 1 みだれ髪 2 海の声 3 あらたま 4 悲しき玩具 5 海やまのあひだ